

# 令和7年度自己評価書

学校名 橋本市立あやの台小学校

校長名 丸山 修

作成日 令和8年2月2日

## 1 今年度の教育目標

今年度の学校教育目標:進んで学び 思いやりのある たくましい子の育成

今年度の研究主題 :自ら学び続ける児童の育成

～ 「考える」「やってみる」の流れを大切に授業づくり ～

## 2 今年度の重点目標

### I 豊かな心の育成

- ①仲間づくり
- ②読書の推進
- ③態度教育の重視と推進
- ④なかよしアンケートの実施

### II 確かな学力の向上

- ①学習規律・生活規律の確立と定着
- ②考える楽しさを感じる授業づくり
- ③ESDカレンダーに基づく実践(カリキュラムマネジメント)

### III 健やかな体の育成と安全教育の推進

- ①体力の向上
- ②児童の健康管理
- ③事故の未然防止

### IV 地域とともにある学校づくり

- ①共育コミュニティづくりの取組への参加・参画
- ②学校の取組の積極的な発信
- ③防災教育の推進

## 3 評価項目の取組及び達成状況

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
I 豊かな心の育成	<p>①仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの活動を中心に据えた学級経営に努める。</li><li>・特別活動の内容の充実、めあてと振り返りの共有化を進める。</li><li>・児童会活動(委員会活動)を活性化させる。</li></ul> <p>②読書の推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・朝の学習の時間の読書タイムを設定、学級文庫の充実・活用、家読(うちどく)の実施。</li></ul> <p>③態度教育の重視と推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規範意識の向上と「挨拶」、「態度」、「学習の姿勢」に取り組む。</li></ul>	<p>児童に、「考える」ことの大切さを常に伝えてきた。「今何について学んでいるのか」「相手は今どう思っているのか」「自分の行動はどうだったのか」「今何をすべきなのか」など、学校生活全般において、考えて行動する事について指導を進めることで多くの学級では安定した学級経営を行うことができた。しかし、今年度においても児童との意思疎通がうまくいかず、児童を主体とした学級経営に苦勞したクラスもあった。児童会活動・縦割り活動については、イベント的なものではなく、児童主体の取組となるよう教職員全体で目的を共有し、取り組むことができた。委員会活動においては、活動状況を鑑み、さらに児童の主体性を育てられる内容に変更していく計画である。</p> <p>朝の学習時間の「読書の時間」や学級文庫の定期的な入れ替えなど、子ども達が進んで本が読めるように、年間を通して取り組んだが、学</p>	B

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を充実させる。</li> <li>④なかよしアンケートの実施</li> <li>・計画的に実施し、児童の実態把握に努める。</li> </ul>	<p>級が落ち着かない、言われなくてできないなど課題はある。また、家読(うちどく)に取り組み、家庭内での読書活動についても向上してきている。</p> <p>学習規律、生活規律、態度教育について改善はされてきている。挨拶の仕方については、集会がある度に話をしたことで、児童会もみんなが元気に挨拶ができるように自分たちで考えた「あいさつ運動」を行うことができた。</p> <p>「なかよしアンケート」を定期的に行い、児童同士の関係性について把握するように努めた。日々のトラブルは成長の一環でもあるが、児童間での話し合いに収めず、保護者の協力も得ながら進めていく必要性を感じた。いじめの早期発見、指導に生かせるよう、教職員でもアンケートに取り組みさせる際の児童への伝え方を再度検討していきたい。</p>	
<p><b>Ⅱ 確かな学力の向上</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習規律・生活規律の確立と定着</li> <li>・人の話をしっかりと聞く姿勢を養う。</li> <li>・学校全体での指導を徹底する。</li> <li>②考える楽しさを感じる授業づくり</li> <li>・児童の思考の流れを想定し、児童の問いを生む授業を組み立てる。</li> <li>③ESDカレンダーに基づく実践(カリキュラムマネジメント)</li> <li>・ESD カレンダーを修正しつつ、実効性のあるカリキュラムマネジメントに努める。</li> <li>・自己とのつながりを感じ、価値観や行動が変容する授業づくりを進める。</li> </ul>	<p>学習規律を守ることを念頭に置きながら取り組んだことで、学習に集中して向き合うことができた学級が多く見られた。しかし、自己主張の強い児童が多い学級では、学習に集中して取り組む雰囲気を作れず、授業態度にも影響を与えていた。すぐに解決できる問題ではないので、学校全体で長期的に取り組む必要がある。</p> <p>「個別最適な学び」に加えて「協働的な学び」を研究テーマとし、実践を進めた。児童一人一人が自分で考えた内容を友達と共有しながら、考えを深める時間を設定して授業を進めることができた。また、タブレットの使用については、機器の不具合が増えてきたことで、授業者の思うような活用ができなかった。来年度から新機種が導入されるので、持ち帰りを含めた活用方法を検討し、実践していきたい。</p> <p>教科横断的な取組ができるようESDカレンダーを作成し、カリキュラムマネジメントを行っている。今年度は特に、アウトプットを意識した実践や直接体験する活動に取り組んだ。1年生は園やボランティアとの連携に取り組み、他の学年においては学んだ内容を集会等で他の学年に伝えるなど、昨年の活動を改善しながら実践できた。</p>	<p>A</p>
<p><b>Ⅲ 健やかな体の育成と安全教育の推進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①体力の向上</li> <li>・目標を明確にした指導計画に基づく授業を実施する。</li> <li>・体力テストD、E判定児童も楽しく運動に取り組める実践を行</li> </ul>	<p>教科体育では、年間指導計画に基づいて単元学習を行い、学校全体として系統的に学習を進めることができた。ICT 機器を活用したりデータ活用を取り入れたりしながら、児童にとって分かりやすい指導を進めることで、運動が苦手な児童も目的意識をもって活動できた。</p>	<p>A</p>

	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間を活用し、健康の保持増進と体力の向上に取り組む。</li> </ul> <p>②児童の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防・学校安全に努める。</li> <li>・養護教諭や保護者との確実な連携に努める。</li> </ul> <p>③事故の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設、設備の安全点検を行う。</li> <li>・学校生活のルールやマナー等の指導を徹底する。</li> </ul>	<p>教科外活動では、きのくにチャレンジランキングへの取組や委員会活動が主催の縄跳び(8の字跳び)など、教科体育とは違うアプローチでスポーツに接する体験をさせることができた。休憩時間に教員が児童と一緒に運動場で体を動かす様子も多く見られた。</p> <p>施設や設備の安全点検については、年1回PTA、年3回教職員が行った。補修個所について早期対応もできた。日々指導を行ってきた学校生活のルールの順守については、廊下を走るなどまだまだ達成できていない部分があるので、継続して全教職員で指導を進めていく。</p>	
<p><b>IV地域と共にある学校づくり</b></p>	<p>①共育コミュニティづくりの取組への 参画・参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共育コミュニティの取組に参加する。</li> <li>・自治会と連携した行事・取組に参画する。</li> <li>・地域ボランティアとの連携を充実させる。</li> </ul> <p>②学校の取組の積極的な発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP や学校だより、学年通信等で、積極的に発信する。</li> </ul> <p>③防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における防災教育や、地域と協働で取り組む防災教育を推進する。</li> <li>・避難訓練、引渡訓練、自治会と協働した防災キャンプを行う。</li> </ul>	<p>今年度、自治会主催の「あやの台フェスタ」において、あやの台小学校のブース(おもちゃランド)を作っていただき、教員も参加・参画することができた。地域の方々に支援していただくだけでなく、今後も地域の一員としての立ち位置を意識し、地域参画できればと考える。また、共育コーディネーターと教職員が連携して、「子ども応援隊」の皆様や保護者の方々など、多くの皆様に協力を得ながら、教育実践に取り組むことができた。この活動そのものが、学校を核としたコミュニティづくりへの参画・参加であるとともに、啓発・情報発信になっている。今後さらに充実させていきたい。</p> <p>学校 HP や学校だより、学年通信等で学校での取組を積極的に発信した。HP については昨今の教員の不祥事により、掲載写真に制限が設けられ、児童の表情が伝えられなくなった。来年度以降、さらに伝えにくくなると思われる。</p> <p>令和5年度から防災キャンプは、自治会主導で開催していただいている。今年度は、昨年度以上に工夫を凝らしていただき、参加した6年生にとって実りのある学習の場となった。今後、地域に返していけるような活動になればと考える。</p>	<p>A</p>

#### 4 保護者アンケート集計結果との比較から見てきた成果や課題

##### ■ピックアップ項目

子どもや保護者の皆様が学校生活や学習についてどのように感じているのか、特に学校として重要に考える項目をピックアップした。

##### ① <学校は楽しい>

	保護者		子ども	
	R6	R7	R6	R7
よく当てはまる	60.0	57.3	69.2	66.1
当てはまる	32.8	34.7	24.0	26.2
あまり当てはまらない	4.9	7.3	5.2	5.8
あてはまらない	2.3	0.7	1.6	1.9

##### ② <友達と仲良くできている>

	保護者		子ども	
	R6	R7	R6	R7
よく当てはまる	58.9	62.2	77.9	74.1
当てはまる	35.8	34.0	17.9	20.8
あまり当てはまらない	4.9	2.4	2.9	4.5
あてはまらない	0.4	1.4	1.3	0.6

##### ③ <勉強は楽しい>

	保護者		子ども	
	この項目は、ありません。		R6	R7
よく当てはまる			55.5	52.4
当てはまる			32.5	35.1
あまり当てはまらない			9.4	8.6
あてはまらない			2.6	3.8

##### ④ <勉強はよく分かる>

	保護者		子ども	
	R6	R7	R6	R7
よく当てはまる	35.5	28.5	61.0	48.9
当てはまる	55.1	58.0	32.8	42.5
あまり当てはまらない	9.4	13.5	3.9	6.1
あてはまらない	0.0	0.0	2.3	2.6

##### ⑤ <子どもの学校生活に安心を感じている>

保護者	R4 後期	R5	R6	R7
よく当てはまる	33.3	35.9	38.9	36.1
当てはまる	58.4	55.7	46.4	50.0
あまり当てはまらない	7.5	7.3	11.3	8.7
あてはまらない	0.7	1.1	3.4	5.2

子どもアンケートにおいて、①②③④の4項目とも「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が増加していることが学校として真摯に受け止めなければならない。これらの事は、保護者アンケートも同様の結果となっている。特に、④<勉強はよくわかる>において、「よく当てはまる」が子どもは10ポイント以上、保護者についても7ポイント下がっている。学習については、学校で一番つけなければいけない力である。日々授業改善を行っているが、子ども達にとってわかる授業になっていないことが考えられる。子ども達にとってよくわかる授業とは何か、しっかり討議し、学校としての取組を充実させる必要がある。

保護者アンケートにおいて、「子どもの学校生活に安心を感じている」項目について、「あてはまらない」が年々増加している。特に5年生において、年度当初に担任が退職し、年末にも5月からの担任が退職するという、子ども・保護者にとって安心できない状態が続いた。また、学級運営に対しても、子どもが安心できる学級になっていなかった。落ち着いた状態での学級運営ができていない学級が他にもあり、学校全体で取り組んでいるものの成果として出ていない状態である。

これらの内容を真摯に受け止め、改善方法を検討して、あやの台小学校児童全員が楽しく安全に登校できる学校となるよう取り組んでいきたい。また、保護者アンケートの記述欄には学校に対する要望や意見が101件寄せられた。学校としての方向性をしっかり伝えつつ、日頃の学校の取組、児童への指導や支援、関わりなどを謙虚に振り返り、課題解決に向けて工夫していきたい。

## ■保護者アンケート(対象:保護者)

### ○「学校の教育姿勢」

「学校に対する評価」全5項目において前年度まで肯定的(「よく当てはまる」「当てはまる」)に評価いただいた家庭が90%を超えていたが、今年度においては、「子どもへの指導は適切である」「学校は保護者の声を真剣に受け止めようとしている」「学校は保護者への情報提供に努めている」の3項目において80%台となった。また、5項目すべてにおいて、肯定的意見が2.3~6.3ポイント減少した。その中で6.3ポイント減少したのが「学校は保護者への情報提供に努めている」である。この項目において否定的な評価が、1年生以外の学年において10%を超えている。特に2,5年生については20%となり、学級の状況や担任の状況についての説明不足がこのような結果となった。学校として取り組んでいることを今後できる範囲で伝える必要性を痛切に感じている。これらの数値とともに、具体的に示していただいた記述アンケートについても全教職員が真摯に受け止め、改善できるように取り組まなければならない。

### ○「子どもの学校生活」

昨年度減少していた「子どもには仲の良い友達がいる」「子どもの学校生活に安心を感じている」の2項目については微増している。上記の「学校の教育姿勢」で軒並み評価が下がっていたが、「子どもの学校生活に安心を感じている」が微増であっても上昇したことは、児童に対する取り組み方については一定数評価をいただけていると思われる。とはいえ、14%弱の保護者が安心できていないことは、学校としては満足のいく数値ではない。保護者が安心して学校に通わせられるよう努めていかなければならない。「楽しそうに学校に行っている」「意欲的に頑張っている」「基礎的な学力がついている」の3項目において評価が下がっていることについては、真摯に受け止め、児童アンケートと共に数値を完全できるよう、年度内に振り返りを行い、来年度に向けての取組について検討を進めていかなければならない。

### ○「家庭教育等」

家庭での教育についてしてみると、8項目中6項目で、肯定的な意見が減少している。これは、コロナ以降の世の中の変化が影響していると考えられる。特に昨今の物価高による生活全般への影響が大きく、学童に通っている児童の人数も増え、日々子どもとゆっくり過ごせる時間が減少していることも要因の一つであると思われる。

一方、「家庭で子どもと語り合う時間を意識している」については、93.1%(昨年度91.3%)と1.8ポイント改善されている。これは、忙しい中でも子どもと過ごす時間を意識している家庭が多いことを示している。子どものアンケートにおいて「家で、学校であったことを話している」が88.0%から82.1%と5.9ポイント減少していることから、保護者の気持ちとは裏腹に、子どもは話していないと感じているようである。保護者の学校の様子を知りたい気持ちや、学校側からの情報提供不足という意見につながっているとも考えられる。不安を少しでも解消できるように、できる範囲で情報共有を進めていきたい。

### ○「地域コミュニティ」

「地域行事などに子どもと一緒に参加するようにしている」で52.8%が肯定的な回答で、昨年度より5.7ポイント下がっている。自治会が中心となり開催している「あやの台フェスタ」や「防災訓練」に多くの方が参加してくださっていたように思われるが、来年度以降も学校として自治会行事に参画し、自治会と連携して子どもと共に保護者の方々も参加してもらえるように工夫していきたい。

## 5 今年度の取組の成果と課題・改善方策

昨年度、目指す児童像を中心に据えられるようスクールプランを刷新した。簡略化した「スクールプラン」により、職員一人一人が日々の実践の中で意識しながら取り組めると考えたからである。重点目標まで大きく変えてしまうとこれまでの積み上げてきたものとかげ離れてしまうため、具体的方策等は再編しなおした。

しかし、年度当初に共有する時間をしっかり取らなかったため、年間を通して、そして全職員で徹底して取り組むところに課題がみられた。日々の授業改善や生徒指導等は、目指す児童像を目標にして取り組む必要がある。随時、スクールプランを意識して、実践を積み重ねられるよう取り組んでいかなければならない。

### (1) 仲間づくり

- ・ 学校生活の基本である仲間づくりについて、子どもの活動を中心にして取組を行ってきた。新規採用から教職30年以上のベテランまで様々な経歴を持ったものが同じように実践するのは難しい。保護者にとって教員の経験年数は関係がないので、今後、あやの台小学校スタイルを作っていく必要がある。児童会活動については児童会を中心とした取組を活発に行えた。児童会主催の季節行事については、一つ一つの取組の目標を明確に持たせ、活動することができた。委員会活動について課題も明確となったので、来年度から改善していく。
- ・ 読書については、朝の学習の時間の活用や学級文庫の充実、そして家庭の協力を得ながら実施した「家読(うちどく)」の実践を進めることができた。「家読」については、保護者から賛否両論あるが、家庭でのコミュニケーションの一つとしての意味もあると考える。来年度も継続して取り組んでいきたい。
- ・ 態度教育については、「あいさつ」「返事」「言葉遣い」「聞く態度」「はきものをそろえる」など教職員の意志統一を図り、学習規律、生活規律、態度教育について、重点的に取り組んできた。しかし、まだまだばらつきがあるので、統一した指導方法を設定していきたい。
- ・ 「なかよしアンケート」を実施した後、児童からの聞き取りには時間をかけて対応した。丁寧に聞き取りを行うことで、保護者との連携も取りやすくなり、事後指導もスムーズに行えた。今後も丁寧な聞き取りを継続して取り組んでいきたい。

### (2) 確かな学力の向上

- ・ 学校生活を送る上での絶対条件である学習規律について、全学級で徹底的に取り組んだことで、特別支援学級を含む多くの学級で、姿勢よく座って話を聞く姿がみられるようになってきていた。しかし、今年度の2年生については、昨年度末から指導が入りにくくなり、数名が落ち着いて授業を受けられなくなっている。複数名体制で取り組んだが改善されなかった。来年度の体制をしっかり検討していきたい。
- ・ 今年度の研究は「授業部会」と「ESD部会」の二本柱で行った。それぞれの部会で研究授業を行ったことで、授業力向上に加え、学校全体でどのように取組を進めていくのか研究協議の度に意見交換を行うことができた。
- ・ ESDカレンダーによるカリキュラムマネジメントについては、それぞれの学年で工夫しながら取り組んだ。今年度の実践の評価を行い、来年度に向けてさらに充実させていきたい。

### (3) 健やかな体の育成と安全教育の推進

- ・ 新体力テストで課題となっている項目に対し、体育科の日々の授業に取り入れる工夫をしていく必要がある。今後、楽しく体を動かし、体力向上できるような取組を検討し、学校全体として実践していきたい。
- ・ 休憩時間の活用について、季節に合わせた取り組みを取り入れていきたい。

### (4) 地域に開かれた学校づくり

- ・ 共育コーディネーターと教職員が連携して、あやの台小学校の教育に多くの方々に支援いただいている。低学年には計算力定着の取組、高学年には家庭科支援、図書室での読書啓蒙活動など、いろいろな取組をしていただいた。来年度も連携をとりながら進めていきたい。
- ・ 今年度も自治会主催の「防災キャンプ」「あやの台フェスタ」を開催していただき、地域と学校が連携をとりながら活動を進めることができた。地域の大人が地域のために行動する自治会の方の姿は、地域の一員としてのモデル像であり、子どもたちにとって将来に向けての貴重な市民教育の機会になったと感じている。学校側も地域の一員として、働き方改革も考慮しながら、これらの地域行事に参画できるようにしていきたいと考えている。